

令和 4 年度学力向上推進計画

「書く力」「読む力・読み取る力」の育成を軸とする学力向上の取組

亀山市立亀山西小学校

I めざす子ども像

亀山市の重点項目に関わることは、★印をつけて下さい。

- ・確かな学力・豊かな学力を身につけ、自ら学び続ける子
- ・人権を大切に、仲間とともにより良く生活する子
- ・心もからだも健やかで、命を大切にする子
- ・自らの健康を保持増進し、安全な生活をつくり出そうとする子

II 子どもたちの学力や学習・生活の状況等

<学力に関して>

- ・主語・述語の関係を捉え、理解できている。
(西小 75% 県 73.7%)
- ★・何が書かれているかといった内容の理解や、文章の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握しながら読むことに課題がある。
(西小 73.8% 県 76.1%)
- ・目的に応じ話の内容が明らかになるよう、文章やスピーチの構成を考えることが苦手である。(西小 70.0% 県 76.7%)
- ・変化と関係の領域では、「速さ」の問題を理解している。(西小 91.7% 県 83.0%)
- ・図形、測定の領域では、公式や数直線の考え方を使って考えることができています。
- ・問題の場面を日常生活に即して判断し、数量の関係を捉えて除法の式を使って考えることに課題がある。(西小 44.0% 県 53.8%)
- ・小数を用いた倍の計算に課題が見られる。(西小 47.6% 県 51.0%)

<学習・生活の状況に関して>

- ・落ち着いて学校生活を送っている。学習規律を守り、真面目に授業に取り組もうとする意識がある。
- ・家庭学習は習慣化されているが、家庭での学習時間は短い。自ら進んで予習、復習する習慣の定着には至っていない。テレビやゲーム、インターネットの動画などメディアとの付き合い方についてルールづくりができていない家庭がある。

III 指導改善のための計画（ポイント）

<学力に関して>

- ★・めあての提示、ふり返りを重点としたわかる授業づくりに取り組む。
 - ・学習内容の定着を図り、定着度を検証・分析をする。学び直しを適切に指導し、基礎学力の向上を図る。
- ・効果的な補充学習を実施する。
- ・授業力向上のために校内研修を行い、学校全体で系統的な学習指導を進める。

<学習・生活の状況に関して>

- ・落ち着いて学習に集中できる学級づくりを行う。
- ・QU アンケート等の実施・分析を行い学級経営につなげる。
- ・学習規律、学習・生活の約束を徹底し、規範意識を身につける。
- ・基本的な生活習慣を向上させ、家庭学習の習慣化のため家庭への啓発を随時行う。
- ・家庭学習、自主学習の定着・内容の充実を図る。
- ・読書活動の充実を図る。

IV 具体的な取組

<確かな学力を身につける授業の改善>

- ◆ 子どもたちが「できた」「わかった」と思える授業づくりを行う。
 - ・子どものやる気を引き出す導入や学習を活発にさせる主体的な学びとなるような単元構成・指導を工夫する。
 - ・「何を学ぶか」が明確なめあてを提示する。
- ★・ふり返りの時間を確保し、学習内容の定着、子どもの学び意欲向上につなげる。また、子どものつまずきを把握し、授業改善に活かす。
 - ・年間を見通し、多くの子がつまずく単元、難易度の高い単元に重点を置いた指導を行う。
- ◆子どもの定着度を確かめ、指導に活かす。
 - ★・教科書の問題に加え、「学 Viva セット」「かめやまっ子チャレンジ」を活用し、子どもが理解しているかどうかを確認し、できないことに対する支援、指導を継続して行う。
 - ・全教職員でみえスタ・学力調査の結果を的確に分析し、課題を把握する。課題となる単元など、共通指導事項として、授業改善につなげる。

<指導力を高める研修の推進>

- ・「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善について研修会を行う。
- ・探究的な学習の過程を軸に主体的・協働的な学びを深める生活・総合的な学習の授業研究を行う。
- ・安心できる学級づくりのための研修を行う。
- ・OJT 研修や学年会などを中心に、指導上で困っていることや悩みなどを聞く機会を多く持つようにし、個々の指導力向上につなげる。

<家庭・地域との連携の強化>

- ・家庭学習や自主学習について、共通理解を図り、家庭学習の習慣化を図るため、家庭学習の手引きを保護者配布するとともに、通信等で情報の発信を行う。
- ・補充学習や授業で、学習支援ボランティア、ゲストティチャーを活用した補充学習や授業を行う。
- ・幼稚園や保育園、認定こども園、中学校との交流、地域との連携を行う。

<組織的に取り組む学校体制の確立>

- ◆ 基礎学力の定着に結びつく家庭学習や自主学習の取り組み方について検討し、実践する。
 - ★・家庭学習で、「音読、計算、漢字」を全校取組とする。あわせて、週末の課題として、つまずきが大きい内容や次の単元のレディネスとなる内容を出す。
 - ★・学年に応じて、日記、条件作文、感想文、紹介文、意見文など「書く」課題を入れる。
 - ・高学年では、自分の理解度に合わせ自ら学習内容を選んだり、見通しをもって学習したりする力がつくよう、課題の出し方を工夫する。
- ◆ 補充学習（パワーアップタイム）や学習会において、個に応じた指導を行う。
 - ・タブレットを活用した個別最適な学びを進める。学習状況一覧等を活用し、つまずいている児童への指導を充実させる。理解・指導が十分な児童には、難易度の高い問題に取り組みせ、より力を伸ばすようにする。
- ◆ 落ち着いて、安心して学べる学級づくりを行う。
 - ・「学習規律」「学習のやくそく」を確認し、全校で実践する。学期はじめに確認する機会を持つ。
- ◆ 取組の進捗状況を把握する機会を設定し、よい取組は全体へ広げる。
 - ・自主学習の評価の仕方やふり返りに何を書かせるのかなど、研修会等で取組を紹介し、全体へ広げる。
- ◆ 算数科デジタル教科書を使った効果的な学びを進める。
 - ・基本的な使い方の研修会をもち、教職員が授業で効果的に使えるようにする。
 - ・学びに効果的な単元や、効果的な使い方を交流する機会をもつ。
- ◆ 生活・総合的な学習の時間において、探究的な学習の過程の「まとめ・表現」を重視した学習計画を実践する。
 - ・考えたことを、児童・保護者・地域へ発表する機会を設ける。